

2級建築士

1. 講座の概要

2級建築士は、大きく「学科」と「製図」があり、それぞれ「無料講座」と「会員講座」がある。

過去問は、建築技術教育普及センターとの使用許諾条件から会員講座のみでの公開としている。毎年(年末)、その年の最新問題の使用許諾を頂き、その後、解答例を追加する。

2級建築士の講座は、2007年から最新年度の過去問を解説している(下表参照)。2級建築士の合格率は、1級建築士と比較する場合、約3倍と高い合格率となっているので、比較的合格しやすい。ただし、近年の問題は、かなり1級建築士の問題に近づいており、難しい問題が多々見受けられるようになった。

以下に、1級建築士と2級建築士の学科及び製図試験の合格率を示す。過去数年の2級建築士の合格率は、学科30～40%、製図50～55%、最終20～25%である。

・1級建築士(2016年の合格率):学科=16.1%、製図=42.4%・・・ストレート合格なら **6.8%** と弁護士並みの難易度

・2級建築士(2016年の合格率):学科=42.3%、製図=53.1%・・・ストレート合格でも **22.5%** と通過可能な難易度

製図試験の予測課題は、1級建築士の製図解説と同じように、「80%以上ズバリの中する項目別の予測課題の解説」をする。ただし、その予測課題は、現段階では、1点予測課題の取りまとめとしている。

2級建築士は、大学、短大、高等専門学校で指定科目を修めた方は、実務経験0年で受験できる。高等学校で指定科目を修めた方は、実務経験3年で受験でき、学歴がない方でも実務経験7年で受験できる。

つまり、全く建築に関係のない方でも、実務経験により「2級⇒1級⇒設備・構造1級」の全ての資格を取ることができる。

・7年経験⇒2級建築士

・4年経験⇒1級建築士

・5年経験⇒設備・構造設計1級建築士

建築業界で生きていくと**志**を持たれた方は、当HPを活用して、2級建築士取得後に1級建築士の取得を目指しませんか。

建築系資格では、最難関と言われている1級建築士について、当HPの講座は効率よく学習できる内容となっている。また、2級建築士や設備設計1級建築士の講座もあり、それらの資料を年会費2万円(延長時は1万円/年)で全て閲覧できる。2級建築士取得後から1級建築士の受験までは4年間であるが、その間、当HPを活用して1級建築士の1発合格を目指しませんか(その間の費用は、4年間延長費×1万円/年=4万円とリーズナブルである、資格学校へ通学すると単年度で短期30万円～長期100万円)。

2級建築士(学科無料講座)

1章 学科試験の現状把握

2章 4科目の項目別問題別一覧表(2007年～最新年度)

3章 過去問の出題法文一覧表(2007年～最新年度)

2級建築士(学科会員講座)

1章 4科目の項目別問題別一覧表(2007年～最新年度)

2章 過去問10年の出題法文一覧表(2007年～最新年度)

3章 4科目全問題のポイント一覧表(2007年～最新年度)

4章 4科目の過去問10年の出題問題一覧表(2007年～最新年度)

5章 年度別の問題と解説(2012年～最新年度)

2級建築士(製図無料講座)

1章 製図試験の現状把握

2級建築士(製図会員講座)

1章 センター出題課題(2012年～最新年度)

2章 センター標準解答図(2012年～最新年度)

3章 センター出題課題の項目別分析(2012年～最新年度)

4章 予測課題の解説(2017年～最新年度)

2. 講座の一部紹介

2級建築士の学科および製図の講座から、一部を紹介する。

学科:4科目における過去問(11年)の項目別一覧表

⇒2007年から最新年の過去問を項目別に分析し、問題番号を振分けた。どの項目がどの程度出題するか一目瞭然である。

製図:過去問分析の「1. 設計条件」の過去問一覧表

⇒2012年から最新年の過去問を課題項目ごとに分析し、出題傾向等を解説している(製図試験も過去問分析が重要)。

2級建築士 4科目における過去問10年の項目別一覧表

表1 I計画の項目別一覧表(平成19年～平成29年)

NO	項目分類	年度										出題数 (個)	出題率 (%)	
		H19 (問目)	H20 (問目)	H21 (問目)	H22 (問目)	H23 (問目)	H24 (問目)	H25 (問目)	H26 (問目)	H27 (問目)	H28 (問目)			H29 (問目)
1	日本建築作品	1	1	1	1		1	1	1,2	1	2	1	11	4.0
2	西洋建築作品					1	2	2		2	1	2	6	2.2
3	用語・環境総合	2,9	2	2,9	2	2,9	3	3	3	3	3	3	14	5.1
4	伝熱	5,6	5,6	5,6	5,6	5,7	5,6	5,6	5,6	5	4,5	5	20	7.3
5	空気・換気	3,4	3,4	3,4	3,4	3,4	4	4,8	4	4,6	6	4,6	19	6.9
6	日照・日射	7	7	7	7	6	7	7	7	7	7	7	11	4.0
7	色彩・照明		9		9		8		8	8	8	8	7	2.5
8	音響	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	9	11	4.0
9	屋外気候						10	10	10	10	10	10	6	2.2
10	住宅計画	10	10	10	10	10	11	11	11	11	11	11	11	4.0
11	集合住宅計画	11	11	11	12	11	12	12	12	12	12	12	11	4.0
12	事務所・商業施設	13,14	12,13	12,13	11,13	12,13	13	13	13	13	13	13	16	5.8
13	公共施設	12,15	14,15	14,15	14	14,15	14,15	14	14	14	14	14,15	17	6.2
14	その他施設			17				15	15	15	15		5	1.8
15	寸法・平面計画		16	16	16	16		16	16	16	16	16	8	2.9
16	高齢者対応	16	17,18		15	16	16	18	17	17	17	17	11	4.0
17	その他計画	17,18		18	17,18	17,18	17,18	17	18	18	18	18	14	5.1
18	設備用語	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	11	4.0
19	空調設備	20	20	20	20	20,21	20,21	20	20,21	20,21	20,21	20,21	17	6.2
20	給排水設備	21,22	21,22	21,22	21,22	22	22	21,22	22	22	22	22	16	5.8
21	電気設備	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23,24	12	4.4
22	防災設備	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	10	3.6
23	環境配慮・省エネ	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	11	4.0
	合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	275	100

注1)項目分類は同類問題の名称を示す。H(平成)は出題年度を示す。表内数値(1~25)は問題番号を示す。

2級建築士 製図試験【過去問分析(1)】「1. 設計条件」の過去問一覧表

過去問分析について

製図試験で重要なことは、**問題文をしっかりと読み取る**ということである。
 問題文をしっかりと読み取るための最も効果的な方法は、過去問の分析である。学科試験も過去問分析が王道といえるように、製図試験も過去問分析は必須事項である。逆の言い方をすると、製図試験を受けるに当たり、過去問分析をしないで行くことは非常に危険であるといえる。

過去問は、試験年度の見直しとなった10の年から現在までの全てを分析する。この取りよめには、1~2週間程度の時間を要するが、研究の集約は、その時間をばらばらにできると思って取り組むべし。過去問は1冊を軸としてこの資料を中心とする。読んでいたがごとく、104~現在の過去問が掲載できるようにまとめている。事前に過去問の題名を確認し、読んでいたのみに残り内容を把握し、研究の資料は、問題文を下部の2項目に分けて、その項目ごとに全ての過去問を一覧表に合わせて、詳細な分析をし、**共通事項**をまとめているので、読むだけでその項目の全体像が見えてくる。

- 過去問分析(1) 1. 設計条件
- 過去問分析(2) (1) 敷地
- 過去問分析(3) (2) 用途、用途及び建築物の用途
- 過去問分析(4) (3) 居住形態
- 過去問分析(5) (4) 人口構成等
- 過去問分析(6) (5) 要求事項
- 過去問分析(7) (6) 用途、エレベーター及びスロープ
- 過去問分析(8) (7) 屋外気候等
- 過去問分析(9) 2. 要求事項

「**読み取る**」は、要求事項を間違えないことだけでなく、**出題者の意図**を知ることも含まれる。1項目だけの過去問を全てを調べると、その出題パターンが見えてきて出題者の意図が分かるようになる。この項目の定題文は例で、毎年2冊をまとめて出版しているように分かるようになる。
「読み取る」は、その項目での**定題文**をしっかりと把握することで、定題文以外をチェックするという読み方ができる。この読み方ができる。通常は読む時間の半分以上の時間で問題文が読めるようになる。製図は、**時間勝負の試験**であるので、「**読み取る**」能力は試験前に訓練する事項であり、定題文題名が一番効果のある学習法である(問題文の多くの部分は定題文である)。

問題文

「問題文」からは、大きく3つのポイントで、水没が、陸揚高に分かる。これは、問題発表時に利用するので、該当する過去問を学習して、水没ポイントの図表または水没高の図表を準備するようになる。
 過去問の出題は下記の通りである。

- H24: 敷地コンクリート造 2階建
- H25: 木造 2階建
- H26: 木造 2階建
- H27: 敷地コンクリート造 3階建
- H28: 木造 2階建
- H29: 木造 2階建

1. 設計条件

「1. 設計条件」は、この製図試験の問題の準備条件や設計目的などが書かれている。
 大きくは、**概況**と**留意**(備考書き)の2つの構成となっている。
 この概況は、各段の条件がないことから、何気なく読み捨てる方も多いが、実は設計上かなり**重要な方針**などが書かれているので、留意して読む必要がある。
 概況は、「この地方...計画する。」と始まっている(各年度の内容は下記の通りである)。その後、強調したい内容がある場合(H24、H28、H27)は、補足が追加されている。この概況は、全体で約60~120文字の内容となっている。その後、「計画に当たっては、次の①~③に特に留意する。」が書かれている。

- H24: ある地方都市において、...を計画する。
- H25: ある地方都市の住宅地において、...を計画する。
- H26: ある地方都市の住宅地において、...を計画する。
- H27: ある地方都市の集積地において、...を計画する。
- H28: ある地方都市の住宅地において、...を計画する。
- H29: ある地方都市の住宅地において、...を計画する。

計画の留意事項は、下記のような**共通事項**が見えてくる。

【共通事項①: 耐震性】

H24以前は、毎年、最後の備考書きで「耐震性」が書かれていた。
 H26も当然「耐震性」に考慮した設計をする必要があり、当然の内容として記載された可能性がある。H29は、削除されているので、今後も書かれない可能性がある。

- H24: ①建築物の耐震性を確保する。
- H25: ①建築物の耐震性を確保する。
- H26: ①建築物の耐震性を確保する。
- H27: ①建築物の耐震性を確保する。
- H28: -
- H29: -

【共通事項②: アプローチ】

「アプローチ」は、外部動線を示すものである。

- H24: ②公算から、施設を直接利用...
- H25: ②公算から、施設を直接利用...
- H26: ②公算から玄関へのアプローチ...
- H27: ②公算から玄関の出入口への主たるアプローチ...
- H28: -
- H29: ②自動車スペースから玄関アプローチへのアプローチには屋外スロープを計画し...

【共通事項③: 主な要求事項】

「**主な要求事項**」の条件は、この留意に書かれている。
 ここに書かれている要求事項は、この建築物で要求事項である出題者が書いていることなので、試験では、この要求事項に準ってマークをし、「要求事項」にも同じマークなどを付けて重要であることを明示的に把握した方がよい。

- H24: ③屋外スペース、屋外フェードラス、④多目的スペース(災害時も利用)
- H25: ③公算から、住宅地、住宅、屋外スペース(災害時)
- H26: ③要求事項の配置・配線、地下の層、住宅地、住宅、屋外スペース、災害時利用、④要求事項の床高
- H27: ③公算から、④屋外スペース、⑤屋外スペース、⑥屋外スペース、⑦屋外スペース、⑧屋外スペース
- H28: ③公算から(水没)、土間スペース(多目的利用)
- H29: ③公算から、④多目的スペース(災害時)